

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	58
基本施策	15	環境の保全	評価責任者	住民生活課長 渡邊 孝司
単位施策	5	エネルギーの有効利用		町有施設整備室長 大場 利昭

1 施策の概要

基本方針	省エネルギー機器の利用、照明や空調の適正管理など、省エネルギーを啓発するとともに、廃熱や太陽熱、雪氷熱の利用、バイオマスエネルギーの利用、太陽光発電、燃料電池など、多様なエネルギーの研究を進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	既存町有施設の省エネルギー化の実施により、施設の長寿命化及びランニングコストの縮減を図った。	町有施設の省エネ改修は一定の整備が図られたところであるが、原発事故等を契機として多様なエネルギーに、国民の関心が高まっている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	既存町有施設の適切な維持管理（改修・修繕）によるランニングコストの縮減及び延命化に取り組む必要がある。	風水力・太陽光などの再生可能エネルギーの利用促進が叫ばれており、地域に最も適したエネルギー開発を進める必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	既存町有施設の省エネルギー化によるランニングコストの縮減、施設の長寿命化を図る施策であり今後も省エネ・新エネルギーに関する調査研究をすすめることは妥当である。
② 有効性	A	省エネルギー化を図るため、最も適した工法で既存施設改修を計画することは有効である。
③ 効率性	A	既存施設の改修により省エネが図られたことは効率的であり、今後、風力・太陽光など各再生可能エネルギーを調査・研究することで、特性に合わせた効率的な利用が期待される。
④ 公平性	A	省エネルギー等環境保全を図る施策であり、全ての町民が恩恵を受けることは公平である。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、省エネルギー等経費縮減に取り組んでいる。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
既存施設の改修によってランニングコストの縮減及び長寿命化を図るなど一定の成果を得た。	同左	

今後の方向性	継続／拡充	継続／拡充
風力、水力、太陽光等自然エネルギーについて情報を収集し、それぞれの特性・地域性に合った利用法を確立することが必要である。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		